



荒れ野を通過、神は私達を 解放へと導かれる

親愛なる姉妹の皆さまへ

教皇フランシスコのメッセージに従って今年の四旬節は、「荒れ野を通過、神は私達を自由へと導いてくださる」というテーマで始まります。このメッセージは、私達に自由への呼びかけ、そしてイスラエルの民のように、荒れ野を渡り奴隷から自由へと向かう出エジプトを遂げることを、あらためて思い起こさせてくれます。

この呼びかけは「一度限りの出来事で終わるものではなく、その途上において熟していくからです。荒れ野にいたイスラエルの民がエジプトへの郷愁を抱いて、実際に幾度も過去を懐かしみ、神とモーセに対して不平をつぶやいたように、今日の神の民もまた、捨て去る決意をしなければならない、自分を苦しめるしがらみを内に抱えています。」

この四旬節を、主のみことばが、今一度私達に注がれる恵みの時期として大切にしましょう。それは、自分たちが荒れ野を渡る準備ができているのか、どこまで来たのか、どんな荷物が私達を重荷にしているのか、わたしたちを縛り、進めなくしている何かがあるのか、などを見つめ直すためなのです。

主が私達一人ひとりの心の中に示すゴールへの道を、はっきり見たいと願う気持ちが、今もなお燃え続けていると私は思います。しかし私達は、それと気づかないうちに、「エジプトを懐かしむ」という誘惑に惑わされ、あてもなくさまよっています。時に私達は、現在の複雑な状況に直面しないように過去を懐かしんだり、平穏な日常生活が妨げられないように自分のルールに固執したり、あるいは、テクノロジーが提供する新しいものやソーシャルネットワークが促進する「楽な」ウェルビーイングに夢中になるあまり、現在の社会の考え方に沿って、表面的で、快適で、便利なものになってしまっています。しかし、自分の弱さに簡単に打ち勝つという事実にもかかわらず、私達は皆、神にもっともっと近づきたいと願っているのだと私は信じています。

姉妹たち、主は私達の苦しみを見ておられ、父親の忍耐をもって私達を待ち、約束の地へと共に導こうと手を差し伸べてくださっています。主は私達を見捨て

ず、束縛から解放してくださいませ。私たちは、この期間、父が示して下さる荒れ野を勇気をもって進みましょう。四旬節は、預言者ホセアが告げたように、「荒れ野が再び初恋の場所となる恵みの時です（ホセア 2：16-17 参照）。神はご自分の民が奴隷の身分を捨て、死からいのちへの旅を体験するよう導いてくださるのです。神は花婿のように私たちをご自身のもとに連れ戻し、私たちの心に愛の言葉をささやいてくださる」。

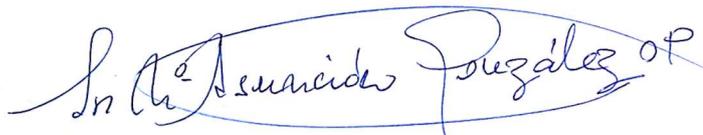
おそらく多くの人にとって荒れ野は、乾いた状態、虚無、暗闇、神不在といった状況に似ているため、耐え難いものだと感じるでしょう。私たちの主イエス・キリストも荒れ野を通して、そこで悪魔の誘惑に打ち勝ちました。私たちにとって、荒れ野は、自分自身を真摯に見つめ、私たちの力の源である主の愛の臨在を私たちの内に再発見し、主の愛の言葉に耳を傾ける機会なのです。そうすることで、主の恵みの助けを借り、「わたしは、あなたがたをエジプトから、奴隷の地から導き出した、あなたがたの神、主である」（出エジプト 20:2）というみ言葉に信頼して、誘惑に立ち向かい、前進を妨げる束縛から解放されることのできるのです。

この四旬節の祈り、断食、施しの伝統的な習慣が、神のことばの深い体験から生まれますように。なぜなら、私たちの内に主を見出すことは、私たちの兄弟姉妹、とりわけ苦しむ人々の顔の中に主を見出すことを意味するからです。「神への愛と隣人への愛は一つの愛です」。

修道者として、喜びと勇気をもってキリスト教的苦行を行ない、私たちの置かれている環境の中で、連帯と友愛の発展を促す行動をとりましょう。

姉妹の皆さん、喜びをもって復活祭を迎えるために、大きな希望をもって四旬節を過ごしましょう。キリストの死からいのちへの旅路は、私たちの旅路でもあるのです。復活されたキリストの喜びと幸せを、私たちの生活の中で告知らせ、証しすることをあきらめないようにしましょう。

姉妹的愛の抱擁と祈りを込めて、


総長 ソール マリア アスンシオン ゴンザレス O.P.

